

地方独立行政法人大阪産業技術研究所
令和3事業年度の業務実績に関する評価結果
(案)

令和4年 月

大 阪 府

大 阪 市

目 次

1	地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方	1ページ
2	全体評価	2ページ
(1)	評価結果と判断理由	
	＜全体評価に当たって考慮した事項＞	
	① 法人の基本的な目標	
	② 令和3年度における重点的な取組	
	③ 特筆すべき取組	
	④ 課題	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3	大項目評価	
3-1-1	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）	5ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-2	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （高度化する企業の技術・製品開発に伴走する企業支援研究の推進等）	7ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-3	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （大阪産業を支える技術人材の育成等）	9ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-2	「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目	10ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-3	「財務内容の改善及び効率化」及び	
3-4	「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目	11ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	

1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方

知事は、地方独立行政法人大阪産業技術研究所について、「地方独立行政法人大阪産業技術研究所にかかる評価の考え方について」（平成30年6月15日施行）に基づき、大阪市長と協議の上、次のとおり令和3事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

（評価の基本方針）

年度計画及び中期計画の進捗状況等を数値目標の達成状況、具体的な事例等で評価し、組織・業務等に関する改善すべき点や府市法人の統合によって可能となる取組等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上及び法人が目指す「スーパー公設試」の取組等に資することとする。

（評価の方法）

事業年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、中期計画及び年度計画に基づく小項目・大項目により、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する事実確認や法人からのヒアリングなどを通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証と評価を行う。

「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②知事による小項目評価、③知事による大項目評価の手順で行う。

① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとに、I～Vの5段階で自己評価を行う。

② 知事小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

③ 知事大項目評価

知事における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

知事において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和3事業年度の業務実績に関する評価について、5ページ以降に示す「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1から3まで、「業務運営の改善及び効率化」及び「財務内容の改善及び効率化・その他業務運営に関する重要事項」の5つの大項目について、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 特に、以下の取組を評価した。
 - ① 国際規格に対応した電波暗室を活用した積極的な技術支援の取組やトヨタなどの大企業が参加するオールジャパン国家プロジェクト「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」をはじめ、多くのNEDO事業に取り組んでいることなど、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1及び2に関する計画を順調に実施した。
 - ② 事業収入の確保、財務基盤の強化と効率的な予算執行等に計画的に取り組むほか、「財務内容の改善及び効率化」「その他業務運営に関する重要事項」等に関する計画を順調に実施した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、3ページ以降に示す法人の基本的な目標、重点的な取組等を総合的に考慮し、全体評価は「**全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している**」とした。
- なお、法人の取組について、次の意見を付記する。

コロナ禍において活動が制限される中、多様化・高度化する企業の技術課題やニーズに対応するため、技術支援、支援研究及び人材の育成等に積極的に取り組んで企業の課題を解決するとともに、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」の推進や競争的外部資金の積極的な獲得により技術力の高さを示したことを高く評価した。第2期中期目標期間においても、引き続き、和泉及び森之宮センターの優れた技術力や強みを融合して技術支援や研究開発に取り組むとともに、コロナ禍における顧客満足度の向上及び新たなサービスの拡充、オープンイノベーションの推進による一気通貫の企業支援など、ものづくり中小企業への支援サービスの向上に積極的に取り組んでいくことを期待する。

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上（5～9ページ）	1	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	2	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	3	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化（10ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善及び効率化その他業務運営に関する重要事項（11ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、令和3年度の重点的な取組等を
総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

<全体評価に当たって考慮した事項>

① 法人の基本的な目標

- 和泉及び森之宮センターの強みを活かし、得意分野に応じた研究開発から製造までの一気通貫の支援や利用サービスのワンストップ化等のサービスの向上に取り組み、多様化・高度化する技術課題、成長産業分野への参入や海外展開に取り組むものづくり中小企業を積極的に支援する。
- 両センターのネットワークや優れた技術力を融合し、産官学連携によるオープンイノベーションの推進や成長分野の研究開発、国際基準対応に取り組み、企業の成長・発展に積極的に貢献するとともに、技術支援や研究開発のポテンシャルを高め、大阪産業の成長を牽引する知と技術の支援拠点“スーパー公設試”を目指す。
- 顧客満足度の向上に取り組み、顧客の拡大や効率的な業務運営で得られた収益を更なる支援に投資、企業に還元する好循環を生み出す運営を目指す取組を推進する。

② 令和3年度における重点的な取組

- 3D造形技術イノベーションセンターの開設と運用
- 次世代通信（5G・6G）材料評価に対応する支援設備の導入
- スマート公設試の実現に向け、外部からのリモート利用が可能な試験設備の導入と運用体制の整備
- ハイエンドなものづくりの推進及び成長分野に挑戦する企業への支援、新産業の創出を促すプロジェクト研究の推進
- 産学官連携コーディネータとビジネスナビゲータによる一気通貫支援の推進
- 金融機関と連携した先進技術スタートアップ事業の実施
- 大阪スタートアップ・エコシステムでの技術支援
- 革新的電池開発プロジェクトの成果応用を見据えた空の移動革命大阪ラウンドテーブルへの参画
- バイオプラスチック等SDGs関連の府市施策との連携
- ライフサイエンス・ヘルスケア等の分野における府市施策との連携
- おおさかグリーンナノコンソーシアム事業による各種企画・運営・支援
- 第2期に向けた計画づくりと「強み」を活かす運営環境の整備

- ③ 特筆すべき取組（（１）全体評価「評価結果と判断理由」の記載内容を除く）
- ・オンライン技術相談の実施の取組
 - ・3D造形技術イノベーションセンターの開設
 - ・先進電子材料評価センター（通称：5Gセンター）の開設
 - ・分析装置（リモート対応型ショットキー走査電子顕微鏡及び材料組織評価装置）のリモート使用サービスの取組
 - ・Webセミナー等で使用するWeb会議専用室の整備
 - ・理事長アドバイザー制度（外部有識者で構成する経営等に係る意見聴取体制）の整備
- ④ 課題
- ・コロナ禍における企業等の人材育成や技術情報の発信に向けた取組
 - ・法人経営や顧客サービス向上に必要な情報を蓄積するため、企業支援に関する顧客情報データベースの登録内容の更なる充実

（２） 評価に当たっての意見、指摘等

- 国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業をはじめ、多くのNEDO事業に取り組んでいることを高く評価する。
- 引き続き、法人経営や顧客サービス向上のため、顧客管理システムの更なる拡充を図られたい。

3 大項目評価

3-1-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 来所、電話、インターネット等の多様な相談を通じて企業の課題解決に取り組み、数値目標に掲げた「技術相談満足度」が目標値を上回った。また、利用者アンケートの結果に基づく業務改善・利用者サービスの質の向上に取り組んでおり、「多様なニーズに応える技術相談の充実」について年度計画を大幅に上回って実施していると判断した。
- ② 基盤研究の成果と技術ノウハウを活用した様々な研究支援を組み合わせ、企業のニーズに応じた受託研究及び簡易受託研究を実施し、企業の製品開発や困難な技術的課題の解決等に取り組み、数値目標に掲げた「受託研究及び簡易受託研究の実施件数」が目標値を上回っており、「多様な企業ニーズに応える受託研究の推進」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上2項目が計画を上回り、他の4項目も計画を順調に実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

6項目全てが小項目評価のⅢからⅤに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は6/6となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援（1～6）	6	1	1	4	0	0
合計	6	1	1	4	0	0

＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がV（計画を大幅に上回って実施）又はIV（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

① 多様なニーズに応える技術相談の充実（1）【V】

- 来所、電話、インターネット、展示会・セミナー会場等において、合計80,483件の技術相談に対応した。また、新たにオンライン技術相談を1,234件実施した。
- 利用者へのアンケート調査を年2回実施し、数値目標に掲げた「技術相談満足度」は、目標値を大きく上回る平均99.5%となった。また、アンケートで利用者から要望等があった内容を全て検討し、業務改善・サービスの質の向上に取り組んだ。

② 多様な企業ニーズに応える受託研究の推進（4）【IV】

- 基盤研究の成果や蓄積された技術ノウハウを活用して602件の受託研究を実施し、依頼者の課題を解決した。また、数値目標に掲げた「受託研究及び簡易受託研究の実施件数」は959件となり、目標値を上回る121%の達成率となった。
- 受託研究において、280人の企業研究員を受入れ、技術移転の迅速化、人材の育成等を行った。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に又は上回って実施していると認められる。

3-1-2 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（高度化する企業の技術・製品開発に伴走する企業支援研究の推進等）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 研究所の有する人材、研究開発力を最大限に活用して行う基盤研究、基盤研究で培った成果を展開して行う発展研究及び新産業の創出を目指すプロジェクト研究に取り組んだ。また、大学、研究機関等との共同研究を積極的に進め、「先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」「先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム事業」「ムーンショット型研究開発事業」などのNEDO事業を実施し、数値目標に掲げた「競争的外部資金研究の実施件数」が目標値を大幅に上回っており、「多様な企業成長を支える基盤研究の推進等」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上1項目が計画を大幅に上回り、他の1項目も計画を順調に実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

2項目全てが小項目評価のⅢ又はⅤに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は2/2となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
高度化する企業の技術 開発・製品開発に伴走 する企業支援研究等の 推進(7)	1	0	0	1	0	0
大阪産業の持続的発展 のための研究開発の戦 略的展開(8)	1	1	0	0	0	0
合計	2	1	0	1	0	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がV（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

- ① 多様な企業成長を支える基盤研究の推進、実用化・技術移転を目指す発展研究の推進及び大阪発の新産業の創出を目指すプロジェクト研究の推進（8）【V】
- 研究所の有する人材、研究開発力等を最大限に活用し、73件の基盤研究や大学等と連携して新規・継続を合わせて102件の共同研究を実施した。また、基盤研究で培った成果の企業への技術移転を目指し、新規・継続を合わせて5件の発展研究を実施した。
 - 新規・継続を合わせて73件の文部科学省科学研究費助成事業（科研費）研究を実施した。また、科研費の新規採択分の採択率（36.0%）が、全国の工業系公設試で唯一、研究者が所属する研究機関別採択率上位30機関（第29位）に入った。
 - 新産業の創出を目指す11件のプロジェクト研究の実施や課題設定型産業技術開発費助成事業、官民による若手研究者発掘支援事業、燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業、先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業、先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム事業、ムーンショット型研究開発事業等の計7件の国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）事業を実施した。また、8件の経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）を実施し、中小企業ニーズや社会的ニーズに幅広く応える研究を推進した。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に又は上回って実施していると認められる。
- 国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業をはじめ、多くのNEDO事業に取り組んでいることを高く評価する。

3-1-3 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（大阪産業を支える技術人材の育成等）

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「大阪産業を支える技術人材の育成」において、コロナ禍において活動が制限される中、感染防止対策を講じて企業への研修等を着実に実施するなど、企業が求める技術人材の育成等を積極的に行うとともに、最新3Dものづくり機器（5軸制御マシニングセンター等）のWebサイトを活用した中小企業への普及促進を進めた。

また、「顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援」（一気通貫支援の充実強化に向けた産学官連携の推進等・ネットワークの構築による企業支援の強化）において、大学、支援機関等と連携して伴走型支援を行う拠点となるテクノイノベーションプラザによる取組を進め、両センター依頼試験等の申請手続のワンストップ化や顧客情報データベースの更なる共有化による法人の基盤整備を図るとともに、Web会議専用室を設けてコロナ禍における積極的な情報発信を行い、池田泉州銀行と連携した先進技術スタートアッププログラムの実施や大阪大学産業科学研究所と連携した「香り・におい・ガスセンサー研究会」の活動に取り組むなどした。

以上3項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

<小項目評価の集計結果>

3項目全てが小項目評価のⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は3/3となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
大阪産業を支える技術 人材の育成（9）	1	0	0	1	0	0
顧客満足度を高める事 業化までの一気通貫の 企業支援（10、11）	2	0	0	2	0	0
合計	3	0	0	3	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「自主的・自律的な組織運営」において、ワンストップ支援を実現するために両センターの依頼試験、装置使用等の申請手続の統一に取り組み、「業務運営の継続的向上のための取組」において、技術サポートセンターによる研究員の負担軽減や機器の効率的な整備を行い、「優れた職員の確保と能力向上に向けた取組」において、研究職3名と事務職2名の令和4年度の新規採用を決定し、「情報システム化の推進」に計画的に取り組むなどした。

以上4項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

4項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は4/4となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
自主的・自律的な組織 運営(12)	1	0	0	1	0	0
業務運営の継続的向上 のための取組(13)	1	0	0	1	0	0
優れた職員の確保と能 力向上に向けた取組 (14)	1	0	0	1	0	0
情報システム化の推進 (15)	1	0	0	1	0	0
合計	4	0	0	4	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- 引き続き、法人経営や顧客サービス向上のため、顧客管理システムの更なる拡充を図りたい。

3-3 「財務内容の改善及び効率化」及び

3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「事業収入の確保」、「財務基盤の強化と効率的な予算執行」、「施設の計画的な整備及び活用等」及び「利用者の安全確保と職員の安全衛生管理」に計画的に取り組み、「危機管理対策の推進・BCPの策定」において、両センターのBCP（事業継続計画）を統合したBCP〔地震編〕を策定するとともに、「社会的責任の遂行」において、個人情報保護や情報セキュリティ基本方針に基づく情報漏洩防止対策の徹底を図り、各種研修による職員のコンプライアンスの徹底に関する意識向上に取り組むなどした。

以上5項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
事業収入の確保、 財務基盤の強化と効率的な 予算執行（16）	1	0	0	1	0	0
施設の計画的な整備及び 活用等（17）	1	0	0	1	0	0
利用者の安全確保と職員 の安全衛生管理 （18）	1	0	0	1	0	0
危機管理対策の推進・ BCPの策定（19）	1	0	0	1	0	0
社会的責任の遂行 （20）	1	0	0	1	0	0
合計	5	0	0	5	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。